



青 於

3月号



新しい1年生を迎える会 (2/27)

にしだ幼稚園年長児を全員招待して、交流会を開きました。1年生が、園児に音読劇「スイミー」や合奏「とんくるりん ぱんくるりん」を披露したり、園児と「ジャンケン列車」で一緒に遊んだりしました。園児のみなさんは、手話を使った「ふるさと」を歌ってくれました。最後に、1年生からは「ぶんぶんごま」、園児からは「メダル」のプレゼント交換をしました。



お巡りさん・交通指導員さん・スクールガードの皆さんに感謝する会 (2/28)

雨が降る日も、雪が降る日も、朝早くから子どもたちが事故に遭わずに、安全に学校に行けるように、見守ってくれた皆さんへの感謝の会を開きました。「見守ってくれる人がいるから大丈夫だ」とは思わないで、自分の命は自分で守る（止まる、確かめる）ことを心がけて生活してほしいと思います。また、2月15日から、新しい登校班の班長に変わりました。責任ある仕事だと思いますが、安全面の気配りをよろしくお願いします。

6年生を送る会 (3/1)

6年生は、大内西小の最高学年として、運動会や自然教室などの学校行事でリーダーシップを発揮してくれました。また、共遊や清掃などの日常生活においても下級生の面倒をととてもよく見てくれました。まさに、「下級生のお手本となるような行動」をしてくれました。

各学年から、心のこもった歌や手作りのプレゼントが6年生に贈られ、今まで大内西小をリードしてきてくれた6年生に対しての感謝の気持ちが伝わったと思います。

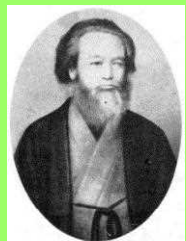


朝会の話(3/5)「米百俵」

越後長岡藩藩士の小林虎三郎（とらさぶろう）が40才の頃、長岡藩は戊辰戦争に敗れました。藩は、見渡すかぎりの焼け野原となり、飢餓状態に陥りました。それを見かねた長岡藩の支藩である三根山藩が、見舞いとして「百俵の米」を送ってきました。藩士たちは、その米を分配してもらえらるものと期待していましたが、虎三郎は、「米を売って、学校を作ろう」と、提案したのです。これに対して藩士たちは大反対をしました。しかし、虎三郎は、「百俵の米も、食べばたちまちなくなる。教育にあてれば明日の一万俵、百万俵となる」と諭して、藩士たちを、納得させました。

「米百俵」をもとに「国漢学校」を設立しました。今までの藩校は、士族の子弟のための学校でしたが、能力があれば、町人や農民も入学できました。また、漢学だけでなく、国史・国学・洋学・医学など、たくさんの学問を教えました。その結果、日本海軍大将の山本五十六をはじめ、教育・医学・政治など、日本や世界で活躍する人がたくさん育ちました。学制発布により、国漢学校はなくなりましたが、「米百俵の教え」は、今も阪之上小学校、長岡高校、長岡赤十字病院などに受け継がれています。

「米百俵の教え」
目先のことを考える
のではなく、将来のこと
を考えて行動することが
大切である。



卒業式 (3/19)

17名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、大内西小学校で、立派に芽を出しました。これから、どんどん大きく成長するために、さらにしっかりと根を張らなければなりません。根を張っていく途中に、大きな石があるかもしれませんが、慌てないで、ひたむきに努力を続ければ、いつかは硬い石を通り抜けることができます。将来、自分らしいきれいな花を咲かせるために、頑張ってください。

